

解析 I 演習 (2 学期 : ベクトル解析)

- 第 4 回 スカラー場・ベクトル場 (1) -

担当 : 佐藤 弘康

◇ 曲線 \mathbb{R} の区間 I から \mathbb{R}^3 への連続な写像 (1 変数ベクトル関数) $x : I \rightarrow \mathbb{R}^3$ を \mathbb{R}^3 内の曲線と呼ぶ。 $x'(t) = \frac{dx}{dt}(t)$ を点 $x(t)$ における曲線 x の接ベクトルという。 $x(t)$ を時間 t の点の位置と見ると, 曲線は点の運動の軌道を表す。このとき, $v(t) = x'(t)$ を速度ベクトル, $a(t) = x''(t) = \frac{d^2x}{dt^2}(t)$ を加速度ベクトルという。また, 質量 m の質点が力 F の作用を受けて運動するとき, 軌道 $x(t)$ は以下の方程式

$$F = ma$$

を満たす。これをニュートンの運動方程式という。

◇ 曲面 \mathbb{R}^2 の開集合 D から \mathbb{R}^3 への連続な写像 $f : D \rightarrow \mathbb{R}^3$ を \mathbb{R}^3 内の曲面と呼ぶ。点 $f(u_0, v_0)$ を通り, ベクトル $\frac{\partial f}{\partial u}(u_0, v_0), \frac{\partial f}{\partial v}(u_0, v_0)$ ではられる平面を点 $f(u_0, v_0)$ における曲面 f の接平面と呼ぶ。これは $\frac{\partial f}{\partial u} \times \frac{\partial f}{\partial v}(u_0, v_0)$ に垂直な平面と定義しても同値である。このとき, $\frac{\partial f}{\partial u} \times \frac{\partial f}{\partial v}(u_0, v_0)$ を点 $f(u_0, v_0)$ における曲面 f の法線ベクトルと呼ぶ。 $f(u_0, v_0)$ を通り曲面 f に含まれる曲線の接ベクトルは $f(u_0, v_0)$ における f の接平面に含まれる。

◇ スカラー場 \mathbb{R}^n の開集合 D から \mathbb{R} への写像をスカラー場と呼ぶ。実数 c に対し, $f = c$ を満たす D の部分集合を, $n = 2$ のとき等高線, $n = 3$ のとき等位面と呼ぶ。一般に等高線は \mathbb{R}^2 内の曲線, 等位面は \mathbb{R}^3 内の曲面となる。

◇ ベクトル場 \mathbb{R}^n の開集合 D から \mathbb{R}^n への写像をベクトル場と呼ぶ。ベクトル場 X に対し, \mathbb{R}^n 内の曲線 $c(t)$ で $c'(t) = X(c(t))$ を満たすものを X の積分曲線と呼ぶ。 $X = (X_1, \dots, X_n), c(t) = (c_1(t), \dots, c_n(t))$ のとき, 積分曲線は微分方程式

$$\frac{dc_1}{dt}(t) = X_1(c(t)), \dots, \frac{dc_n}{dt}(t) = X_n(c(t)) \quad (4.1)$$

または

$$\frac{dx_1}{X_1} = \dots = \frac{dx_n}{X_n} \quad (4.2)$$

の解である。

問題 4.1. 次の式が成り立つベクトル関数 $\mathbf{r}(t)$ はどんな関数か説明せよ .

$$(1) \langle \mathbf{r}, \mathbf{r}' \rangle = 0$$

$$(2) \mathbf{r} \times \mathbf{r}' = \mathbf{0}$$

問題 4.2. 3 つのベクトル関数 $\mathbf{a}(t), \mathbf{b}(t), \mathbf{c}(t)$ が , 任意の t に対し長さが 1 で

$$\mathbf{a}(t) \times \mathbf{b}(t) = \mathbf{c}(t), \quad \mathbf{b}(t) \times \mathbf{c}(t) = \mathbf{a}(t), \quad \mathbf{c}(t) \times \mathbf{a}(t) = \mathbf{b}(t)$$

を満たすとする . このとき ,

$$(\mathbf{a}'(t), \mathbf{b}'(t), \mathbf{c}'(t)) = (\mathbf{a}(t), \mathbf{b}(t), \mathbf{c}(t))A(t)$$

で定まる行列値関数 $A(t)$ は交代行列になることを示せ .

問題 4.3. 次の式を満たす曲線 $\mathbf{r}(t)$ を求めよ . ただし , \mathbf{a}, \mathbf{b} は定ベクトルで , $\langle \mathbf{a}, \mathbf{b} \rangle = 0$ を満たすとする .

$$(1) \mathbf{a} \times \mathbf{r}'(t) = \mathbf{0}$$

$$(2) \mathbf{a} \times \mathbf{r}'(t) = \mathbf{b}$$

問題 4.4. 質点の位置ベクトルを $\mathbf{x}(t)$ とするとき , $\frac{1}{2}\mathbf{x}(t) \times \mathbf{v}(t)$ を面積速度と呼ぶ . 質点が中心力を受けて運動するとき , 面積速度は一定であることを示せ .

問題 4.5. $\mathbf{R}^2 - \{0\}$ で定義されたスカラー場

$$f(x, y) = \frac{x^2 + 2y^2 - 1}{x^2 + y^2}$$

の等高線を求めよ .

問題 4.6. $\text{grad } f = \mathbf{0}$ を満たすスカラー場はどのような関数か考察せよ .

問題 4.7. \mathbf{R}^3 の開集合で定義されたスカラー場 f に対し , f の勾配ベクトル場 $\text{grad } f$ は f の等位面の法線ベクトルとなることを示せ .

問題 4.8. ベクトル場 X に対し , スカラー場 f が

$$\langle X, \text{grad } f \rangle = 0$$

を満たすならば , f は X の積分曲線上で定数であることを示せ .

問題 4.9. 次の \mathbb{R}^2 上のベクトル場 X を図示し, その積分曲線を求めよ.

(1) $X(x, y) = (x, y)$

(2) $X(x, y) = (-y, x)$

例題 4.10. ベクトル場 $X(x, y, z) = (x, y, z)$ の積分曲線を求めよ.

解. $c(t) = (c_1(t), c_2(t), c_3(t))$ を X の積分曲線とすると, (4.1) 式から

$$\frac{dc_1}{dt}(t) = c_1(t), \frac{dc_2}{dt}(t) = c_2(t), \frac{dc_3}{dt}(t) = c_3(t)$$

を満たす. この式を積分すると

$$c(t) = (k_1 e^t, k_2 e^t, k_3 e^t)$$

となる ($k_i \in \mathbb{R}$).

一方, (4.2) を用いると

$$\frac{dx}{x} = \frac{dy}{y} = \frac{dz}{z}$$

を解けばよいことがわかる. $\frac{dx}{x} = \frac{dy}{y}$ を積分すると $\log y = \log x + l_1 = \log e^{l_1} x$.

よって $y = e^{l_1} x$. 同様に $\frac{dx}{x} = \frac{dz}{z}$ より, $\log z = \log x + l_2 = \log e^{l_2} x$. よって $z = e^{l_2} x$. したがって, 積分曲線は

$$x = \frac{y}{e^{l_1}} = \frac{z}{e^{l_2}}$$

となる. この結果から曲線の像が原点を通る直線になることはわかるが, パラメータの情報は含んでいない.

問題 4.11. 次のベクトル場 X の積分曲線を求めよ.

(1) $X(x, y, z) = (x, -y, 2z)$

(2) $X(x, y, z) = (x^2, -xy, -y^2)$

□ レポート問題 (9 月 14 日) の解答

問題 2.8 の解 $x = (3, -1, -1)$ ■

問題 2.9(2) の解 a, b, c は一次独立だから, \mathbb{R}^3 の基底となる. したがって, $x \in \mathbb{R}^3$ は $x = xa + yb + zc$ ($x, y, z \in \mathbb{R}^3$) と書ける. (2.6) 式より

$$\begin{aligned} \langle x, a' \rangle &= \langle xa + yb + zc, a' \rangle \\ &= x \langle a, a' \rangle + y \langle b, a' \rangle + z \langle c, a' \rangle \\ &= x \end{aligned}$$

となる. 同様に $y = \langle x, b' \rangle$, $z = \langle x, c' \rangle$ を得る. ■

問題 2.9(3) の解 1 条件式 (2.6) から具体的に a', b', c' を求めよう. (2.6) 式から a' は b, c に直交しているので, $a' = kb \times c$ と書ける ($k \in \mathbb{R}$). このとき,

$$1 = \langle a, a' \rangle = k \langle a, b \times c \rangle = k[a, b, c]$$

したがって, $a' = \frac{b \times c}{[a, b, c]}$. b', c' についても同様. ■

問題 2.9(3) の解 2 a', b', c' と a'', b'', c'' が共に (2.6) 式を満たすとすると, ただちに

$$\langle a', a \rangle = \langle a'', a \rangle, \quad \langle a', b \rangle = \langle a'', b \rangle, \quad \langle a', c \rangle = \langle a'', c \rangle$$

を満たすことがわかる. すなわち,

$$\langle a' - a'', a \rangle = \langle a' - a'', b \rangle = \langle a' - a'', c \rangle = 0.$$

このことから, ベクトル $(a' - a'')$ は基底のすべての元と直交するので, 0 ベクトルである. したがって, $a' = a''$. b', c' についても同様. ■

◇ 相反系 1 次独立なベクトル a, b, c に対し, (2.5) 式で定まる (または, (2.6) 式を満たす) ベクトルの組 a', b', c' を a, b, c の相反系と呼ぶ.

問 a, b, c の相反系を a', b', c' とするとき, a', b', c' の相反系は a, b, c になることを示せ.

問題 2.10 の解 三角形 ABC がベクトル $a = (a_1, a_2, a_3), b = (b_1, b_2, b_3)$ を 2 辺にもつとする. これらを xy 平面に正射影したベクトルはそれぞれ $a_{xy} = (a_1, a_2, 0), b_{xy} = (b_1, b_2, 0)$ だから, この 2 つのベクトルを 2 辺にもつ三角形の面積の 2 乗は

$$\left(\frac{1}{2} \|a_{xy} \times b_{xy}\| \right)^2 = \frac{1}{4} \|(a_1 b_2 - a_2 b_1, 0, 0)\|^2 = \frac{1}{4} \begin{vmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{vmatrix}^2$$

となる. yz 平面, zx 平面に正射影したベクトルを 2 辺にもつ三角形についても同様にできるので,

$$\begin{aligned} S_1^2 + S_2^2 + S_3^2 &= \frac{1}{4} \left(\begin{vmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{vmatrix}^2 + \begin{vmatrix} a_2 & b_2 \\ a_3 & b_3 \end{vmatrix}^2 + \begin{vmatrix} a_3 & b_3 \\ a_1 & b_1 \end{vmatrix}^2 \right) \\ &= \frac{1}{4} \|a \times b\|^2 = S^2 \end{aligned}$$

となる. ■